



よみがえる グリーンライン

～拾う神、次々登場～



グリーンラインを愛する会
理事長 丸山 孝志

一時停滞しかけた活動が半年程経った頃から少しづつ持ち直すようになりました。ロータリークラブやライオンズクラブと言った奉仕団体から協力の申し出を頂けるようになり、「会の活動に参加したい」と言う個人の方も少しづつ増えてきました。

もちろん行政の中に私たちの活動を理解し、応援してくださる方々が増えてきたことは大きな力になりましたが、他にも「拾う神」が次々に登場してくれました。福山グリーンラインでドラマチックな出会いをした地元紙のY記者をはじめ、マスコミの方々の理解や応援も大きな後押しになりました。

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌…様々なメディアが「不法投棄ゴミの回収と不法投棄の抑止」「捨てられ犬の保護活動」「桜の植樹」「公園や元駐車場などの整備」などなどの紹介をして下さいました。そのおかげで福山グリーンラインの現状と、私たちの活動を多くの人達が知る事になりました。

もちろん良い事ばかりではありませんでした。以前にも紹介したように「エアコンでもテレビでも、福山グリーンラインへ捨てておけば、愛する会たら言うのが片付ける。」等と言うとんでもない噂も広がりましたが、そうした噂についてもマスコミが報道してくれ、実際には少しづつ不法投棄は減少し始めました。やはりそうした違法行為をする人たちも自分の行為に後ろめたさを感じておられて、福山グリーンラインの不法投棄がみんなの知るところとなってからは捨てにくくなつたのだと思います。

また、不法投棄の現場には警察の出動を要請し、現場検証の様子が通行車両の目につくようにし、また行為者を特定できる証拠品探しも行いました。

実際に警察が証拠を元に「回収しなければ検挙

する」と警告してくれた例もありました。

「捨てにくくする」と言う点では私たちもいろいろ工夫をしました。

活動回数を増やすことは困難なので、看板を付けた車両を使用し、幟を立て、ユニホームを着て活動するなどして、なるべく目立つようにしました。

また、私自身も出来るだけ頻繁に福山グリーンラインを走るようにし、目立つ看板を車に付けました。

「良い事ばかりではなかった。」と言えば野犬や捨てられ犬(私たちは「捨て犬」ではなく敢えて「捨てられ犬」と呼んでいます)の保護活動も最初は好意的な反応ばかりではありませんでした。

最初の頃は圧倒的に野犬が多かったのですが、その野犬の保護活動を福山グリーンラインでドラマチックな出会いをした地方新聞のY記者が取り上げてくれました。野犬を捕獲するのは私たちの手に負えないでの、行政の協力をいただいていました。また野犬たちを保護して里親様に渡すことも私たちにはできませんでした。「ごめんね。他に方法が無いんだ。ごめんね。」そう心で詫びながら野犬たちを捕獲しました。2000年12月15日、仕事から帰った私の元に一通の封筒が届いていました。封筒の裏には可愛い犬たちの写真が…そして差出人の名前は「グリーンラインの犬達より」…。



不法投棄の現場検証